

第31回全カナダ日本語弁論大会の報告 —初のオンライン大会を終えて—

国実久美子（ウォータールー大学レニソンユニバーシティカレッジ）
矢吹ソウ典子（ヨーク大学）
有森丈太郎（トロント大学）

1. 全カナダ日本語弁論大会の概要

全カナダ日本語弁論大会は、日本語教育の推進を目的として1989年に在カナダ日本国大使館によって初めて開催されました。現在は国際交流基金、日本国大使館・総領事館、日系企業や高円宮日本教育・研究センターなどの団体からの支援のもと、全国大会組織委員会とカナダ日本語教育振興会（CAJLE）が共催で行っています。毎年開催地を変え、当日の運営はそれぞれの地区の実行委員会や開催校が担当しています。

全国大会にはカナダ国内の7つの地区大会⁽¹⁾から初級・中級・上級・オープン部門の一位入賞者が招かれ、四部門で競い合います⁽²⁾。日本語学習者にとって全国大会への出場は日頃の日本語学習の成果を披露する機会であると共に、さらに日本語を上達させたいという意欲を持つ契機となります。また、各地域からの出場者が一堂に会し、レセプションに参加したり共に宿泊したりすることにより、励まし合い情報を交換する機会が得られ、州を越えて交友を深められる特別な場にもなっています。

2. 第31回大会のオンライン移行の経緯

2020年3月29日に行われた第31回大会は当初、国際交流基金トロント日本文化センターで行われる予定でした。しかし、準備が最終調整に入っていた3月中旬、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、開催の可否と方法を検討することになりました。その時点では、まだ緊急事態宣言は出されておらず、地区ごとに集まって中継をつなぐという案もありましたが、状況の見通しが立たないことから、全ての出場者に自宅から参加してもらおうという結論に至りました。その直後、学校は閉鎖となり、5名を超える人が集まる公共イベントは禁止、病院や食品店な

どの生活に必要な不可欠なサービス以外は営業停止と、事態は刻々と変化しました。もともとは審査員にだけは会場に集まっていたかと考えていたのが、最終的には運営スタッフを含め、全員が自宅からの参加になりました。今思うと、早めにオンラインへの移行を決断したことが大会実現の鍵だったかもしれません。

3. オンライン開催の方法

大会を行うにあたっては、国際交流基金からオンラインのプラットフォームの提供と技術面での人的サポートを受けました。

プラットフォームとしては、カナダで一般に広く使用され、国際交流基金でも研修などで使われているビデオ会議システムのZoomを用いました。Meeting Roomを2つ設け、1つは出場者の発表用、もう1つは審査員用としました。大会の様子は一般の方にも見ていただけるようYouTubeでライブ配信を行いました。

前日には出場者へのオリエンテーションの時間を設けました。当日のスケジュールの確認と進行上の説明、Zoom使用上の注意事項（リンクを他者と共有しない・発表中以外はマイクをオフにする等）の伝達、および審査基準や賞の内容の説明を行ってから、カメラやマイクのテストを目的に、出場者一人ずつに簡単な自己紹介をしてもらいました。

審査員とも事前に綿密なミーティングを行いました。評価表をGoogleスプレッドシートで作成し、スピーチが終わるごとに順次入力してもらい、集計が即時にできるようにしました。一番の懸念は、インターネットの接続が途中で切れることでした。審査に支障をきたすことも想定し、審査員（大会規定では5名から7名、今回は5名で実施）のうち3名が審査可能であればや

り直しはせず、3名の点数の平均をもとに合計点を算出することにしました。さらには、審査のやり直しが必要な時には審査員室から司会者に伝達し、Zoomのチャットボックスで発表者全体に伝えるという段取りを決めました。司会者の他に技術スタッフ、審査員室担当者、チャットボックス係、および集計係が控えており、常に携帯電話等を通じて状況の伝達のやり取りを行いました。実際には音が途切れてスピーチのやり直しが必要だった出場者は1名のみでしたが、スピーチの冒頭だったので、大きな影響はありませんでした。

4. オンライン大会の良かった点と今後の課題

オンライン大会の最大の成果は言うまでもなく、参加者に安全に参加してもらうことができたことです。新型コロナウイルス感染症の拡大により生活が一変し、開催見送りという選択肢もありましたが、オンラインに切り替えたことで、地区大会を勝ち抜いた選りすぐりのスピーチを全国で披露するという機会を絶やすことなく、大会を継続できたことは大変意義深いと考えます。

出場者の居住地は、西はバンクーバー、東はハリファックスと最大4時間の時差があったため、開催形式の変更に伴い、開催時間を午前から午後を組み直しました（表1参照、時間は現地時間）。その結果、全国の視聴者にとっても見やすい時間になり、YouTubeの同時接続視聴者数はピーク時で200名近くと、多くの一般の方に見てもらえることができました。また、ライブチャットにはカナダだけではなく、アメリカやロシア、エジプトなどからも書き込みがありました。

出場者が日本語のスピーチを通して、日本語・日本文化への興味や家族との絆、人生の試練や転機、社会への疑問・提言など、日ごろの考えを伝え、世界とつながることができました³⁾。その一方で、スピーチ中にチャット欄に心ないコメントが書き込まれるということも起こりました。このような事態を想定し、常にチャットの内容をチェックしていたので、すぐに削除できましたが、「開かれている」という利点にはこのような危険性が伴うことを改めて認識しました。また、大会が行われた時期は、Zoomの会議を狙って侵入し進行を妨害する「Zoombombing（ズーム爆撃）」の被害が広がる前でした。Meeting Roomは「出場者用」「審査員用」共に「決してリンクを他人に知らせないこと」を徹底しましたが、オンラインで大会を行う場合、セキュリティ対策は必須事項であると言えます。加えて、出場者や審査員があらかじめツールの操作に慣れておくように練習の機会を設定すれば、より円滑な運営ができます。

その他の利点としては、現地に呼び寄せるための航空券代や宿泊費がかからないことが挙げられます。今回の経費は出場者に授与する奨学金が主で、奨学金は電子送金、賞状はPDFにしてメールで送りました。今後、資金確保が困難な状況に陥れば、オンラインで行うという選択肢があることを確認できました。ただし、「交流」という面では限界があることは否めません。今回の大会の交流的な側面は、前日のオリエンテーション、そして司会者と出場者のやり取りでした。部門の合間に司会者が出場者と日本語でおしゃべりした場面がありましたが、視聴者

表1 当日の進行予定表

	British Columbia (太平洋夏時間)	Alberta (山岳部夏時間)	Manitoba (中部夏時間)	Ontario Ottawa Quebec (東部夏時間)	Atlantic (大西洋夏時間)
初級・中級部門マイクチェック	9:45 am	10:45 am	11:45 am	12:45 pm	1:45 pm
開会式／初級・中級部門発表	10:00 am	11:00 am	12:00 am	1:00 pm	2:00 pm
上級・オープン部門マイクチェック	11:15 am	12:15 pm	1:15 pm	2:15 pm	3:15 pm
上級・オープン部門発表	11:30 am	12:30 pm	1:30 pm	2:30 pm	3:30 pm
表彰／閉会式	1:30 pm	2:30 pm	3:30 pm	4:30 pm	5:30 pm

からも好意的な感想が多く寄せられました。審査に影響のない範囲で、このようなコミュニケーションを組み込めば、オンライン大会でも交流を充実させられる可能性があります。

出場者にとって、地区代表として全国大会へ遠征することは大きな誇りと自信になります。また、普段なかなか出かけることのない他州を訪れ、同年代の同じような興味や志を持つ出場者同士が交流し、さらには審査員やスポンサーなど大会に関わり、支えてくれている方々に会うという社会経験も全国大会は提供できます。財源と安全性が確保できるかぎり、現地での開催が第一の選択肢です。次回の大会までには事態が収束して、通常の現地大会が開かれること

を願っていますが、今後もこのような事態は起こり得るでしょう。「日本語学習者が日本語で意見を発信する」という目的を達するために、状況によっては利用できるツールを活用し、柔軟に対応することの重要性をこの大会を通して示せたのではないかと考えます。

「Where there's a will, there's a way—意志あるところに道は開ける」という言葉もあるように、この大会は何とか開催させたいという多くの方々の想いと支えによって実現しました。この場を借りて、ご協力・ご理解くださった皆様に心よりお礼を申し上げます。

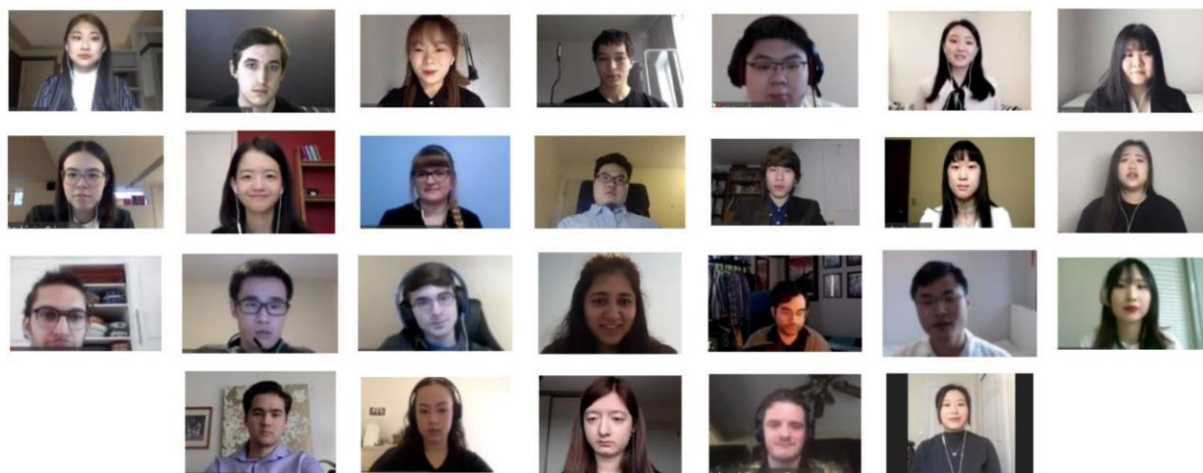


図1 大会出場者（出典：カナダ日本語教育振興会ホームページ）

注

- (1) 全国大会・地区大会の情報 <https://www.cajle.info/programs/speech-contest/>
- (2) 大会の出場資格 <https://www.cajle.info/programs/speech-contest/guidelines/>
- (3) 大会のビデオとスピーチ集 <https://www.cajle.info/programs/speech-contest/njsc/>

参考文献

- (1) カナダ日本語教育振興会ホームページ 第31回全カナダ日本語弁論大会文集
<<https://www.cajle.info/wp-content/uploads/2020/05/31st-NJSC-Collection-of-Speeches.pdf>>（2020年6月3日）